

名張市立看護専門学校

名張市立病院の開院にあわせ、1994年4月に設立され今春、29期生となる入学生を迎えた名張市立看護専門学校。県内唯一の公立看護学校として、保健福祉施設協力のもと、地域住民と交流を深め、地域ごとで異なる看護ニーズも学びます。看護の道を歩む学生、支える教員の皆さんを取材しました。



1年次の前期には、脈拍や血圧を測定するバイタルサイン測定を校内で実習します



入院していた祖父のお見舞いで良くてくれた看護師さんを見て、将来の仕事にしたいと考えました。実習先の患者さん、学校の先生に褒めてもらえることが、頑張るモチベーションにつながります。先生だけでなく、先輩との距離も近いです

中井日菜乃さん(2年)

人と関われる仕事をしたい、つらい状況の人が改善していくのを見守れる看護師に魅力を感じました。学校は学費が安く、少人数制です。学生みんなの看護に対する考え方を聞くことで、刺激し支え合うことができます

宮本京和さん(3年)



他の学校の多くは実習先が不透明ですが、学校では市立病院が実習先です。受け入れてもらえる環境があることは恵まれていると感じます。通学時は地域の方が挨拶してくれて、周りの皆さんに助けられていると感じます

迫田萌花さん(3年)

名張市立看護専門学校で学ぶ3人にインタビューしました

information

名張市立看護専門学校

名張市百合が丘西5番町32
電話 / 0595-64-7700
https://nabari-city-hospital.jp/kango
インスタグラム@nabari_kango_official

オープンキャンパスを開催します!

- 1回目 5月15日 日 来場者向け
 - 2回目 8月1日 月 模擬授業でおもてなし
- 当日参加の方もOK!



(左上)国際看護の授業は「JICA関西」へ研修に行き、国際協力活動の実際について学習 (右上)合同研修では全員が一枚の写真に収まって記念撮影! (右下)今年4月には合同研修を数年ぶりに開催。学生、教員がスポーツに打ち込んで、親睦を深めました



(上)看護技術を身につける校内実習では、多くのモデル人形を使って何度も練習して技術を身につけています(写真:静脈内注射の校内実習場面) (右)左から松井妙実学校長、中西優輝事務局長、下永美智子教務主任

少人数制ならではの 近い距離で励まし合う

市民の健康生活へのニーズに対応するため、名張市を設置主体に名張市立看護専門学校は開校しました。看護学校としては県内で最も安い学費ながら、1学年定員20人という少人数制を採用。学生は3年間、学びを深め充実した学校生活を送ることができています。

伊賀圏内から通学する学生が8割の中勢地域や東紀州地域、奈良県からの学生もいます。感性豊かな人間性を養い、看護に対する知識、技術、態度を身に付け、保健医療の変化に対応できる看護実践者の育成を目指しています。



(左)園芸療法では芝人形作成の体験演習を実施しました (右)同じ体験演習で花の飾りつけにも学生はチャレンジしました

地域に出て学ぶ 人とのつながり

2022年には、近年コロナ禍で控えていた合同研修を数年ぶりに開催しました。学生は1〜3学年が混在でチーム結成。さらに教員も加わり、みんなでレクリエーションを楽しんだり、日常の光景が徐々に戻りつつあります。学生にとって学びの場所は学内だけでなくありません。卒業までの3年間、授業の3分の1は病院などでの臨地実習にあてられます。実習先は名張市立病院、第2はなほ里、名張市福祉センター、市の地域包括支援センターといった保健福祉施設。他の看護学校では、一般的に病院での実習の受け入れ先は流動的なのが多く、学生はどこが実習先になるかはわからないもの。それでも学校は、

隣接する名張市立病院が実習受け入れ先として確保されているのも魅力。長年の先輩が学んだ場所と同じ実習先が決まっていることは学生の安心感につながります。実習では、地域住民との交流も積極的です。名張市こども支援センターかがやき、地域包括支援センターにも学生は足を運びます。キーワードは「人とのつながり、まちを元気にする」社会的処方視点を持つことです。

社会的処方の視点でも 看護ニーズを学ぶ

「近年、日常生活におけるの困りごとに対し声を出せない人たちが寄

り添う伴走型支援体制のニーズが高まっています。学生が地域へ出ることで社会的処方(リンクワーカー)の視点を学び、卒後に地域包括支援センターや地域のコミュニティと連携。その学びを医療現場で生かし、地域へつなぐことは、これからの看護師には必要になってくる」と事務局長の中西優輝さん。社会的処方とは、つながることや病や孤独、孤立を地域からなくしていくことです。地域包括支援センターの実習では「まちの保健室」へ足を運び、健康づくり支援活動や配食サービスのボランティア活動にも参加。地域の方と触れ合い、過疎化といった地域が抱える問題とも向き合います。教務主任の下永美智子さんは「名張市は広く、地域ごとに特色がある。看護ニーズの違いを肌で感じられます」と狙いを明かします。

さらに今年度の新入生から、一部カリキュラムを更新。生活環境、地域探求という授業は継続しながら、園芸療法士やアロマ療法士、音楽療法士といった非常勤講師の先生から、生活に関する草花や匂い、音楽がもつ人への作用について学ぶ教育内容を取り入れています。

教員の皆さんは「いつか地域医療を支える看護師へ」と願い、学生に接します。実際、名張市立病院に勤務する看護師の半数以上は卒業生。もちろん市内の開業医院、福祉施設でも多くのOB・OGが働いています。これからは在学中から、より専門的に地域について学んだ学生が看護師となり支えてくれるはず。